
私の親友はふじょしという者で。

pipi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の親友はふじょしという者で。

【Nコード】

N77780

【作者名】

p.i.p.i

【あらすじ】

私の親友、めい。めいは学年、いや学校中で一番といつてもいいほど、可愛くて可愛くて可愛くて（大事なことなので3回言いました）、私の自慢の親友であり、癒しの存在だった。そのめいがある日、まるで告白するみたいに顔を赤くして（この顔は犯罪級）、私に告げたのは・・・「私・・・腐女子、なんだ・・・。」
・・・はい？

私はその告白を受けたのは、二年の冬・・・。
高校の部活を通して私たちが仲良くなってから、1年と半年以上過ぎてからのことでした。

私とみかは部室でまったりとした空気の中、それぞれ思い思いのことをしてくつろいでいた。

他に人はなく、みかがブックカバーのついた小説を読んでいて、部室には頁をめくる音と私が携帯をいじる音しか聞こえないくらい静かだった。

私は時折、みかのふわふわした髪の毛やふわふわしたみかの携帯についているぬいぐるみを見て心を和ませていた。
私にとってみかは癒しの存在だからだ。

まあ、いつもの光景であった。

ふと、みかが小説から顔をあげた。

「あのね・・・、めい。」

「ん？なに？みか。」

私も視線を携帯からみかに向けると、私の好きなくしゃっと笑うみかの笑顔ではなく、小動物みたいにくりくりした目を潤ませ、頬をピンクに染めていた。

犯罪級の可愛さに女ながらドキドキし、これから何が起こるかとい

う高揚感を感じつつもみかの小さくて可愛い口から続く言葉を待った。

「私・・・腐女子、なんだ・・・。」

「・・・・・・・・・・は？」

）・・・・・・・・ふじょしって、なに・・・？（

こうして私とみかの部活仲間でありクラスメイトであり、親友の關係から、部活仲間でクラスメイトであり、ふじょしの親友という一つのカテゴリーが加わることとなった。

何も言わない私に、恐る恐るといったようにみかが口を開いた。

「……ということなの。……ひいた……？」

「いや、そんなことないよ、みかはみかじゃん。」

「……めい……！ずっと隠してて、ごめんね。言い出せなくて……」

「全然気にすることないのに。」

「……ありがとう……！」

みかは私が言葉を発すると同時に感極まって私に抱きつく。

勢いあまって少し涙も出てしまったらしく、肩の方からズビズビと鼻をすすする音が聞こえてきた。

かわいい。

みかは私から離れて目を擦ると、笑顔を見せてくれた。

やはり、私の好きなみかのくしゃっとした笑顔を見ると、私の心は安らいだ。

（ 腐女子ってよく分かんないけど……これからの私たちの関係になんにも、変化なんて…… ）

「で、今回なんでめに話したかっていうとね、実は、」

めいは、私が大好きな、可愛い、それは可愛い笑顔を浮かべながら。
その時私は何故か今世紀最大の寒気を感じました。

「めいに、男装してほしくって！」

（ 勘弁してください ）

(後書き)

きっかけ編です。

とりあえず続きを何にも考えてないので短編としておきました。

でもめいとみかは個人的にとっても好きなキャラなので、連載でまたやってみたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7778o/>

私の親友はふじょしという者で。

2010年11月8日01時05分発行